

●降って湧いたガラガラポン解散

江戸を舞台の勸善懲惡型時代劇によく出てくる、大身旗本ドラ息子のガラガラポンを連想してしまった国会解散劇の幕開けからほぼひと月。文章の中で、「希望」という言葉を使いづらくなって情けないのですが、選挙戦予想はいずれも与党優勢。中には圧勝というもあり、やっぱりなど妙に納得してしまう今日この頃です。冷静に見える分析の中に、以前から「他に代わり得る存在が無いゆえの消極的支持」というのがありますが、そんなことではないような気がします。多くの人びとは近頃、本音として何を望んでいるのか。

たぶん森友や加計の徹底説明などではありません。下世話ながらあえて言えば、気に食わぬ対象(国・団体・人)をもっとやっつけて欲しい、もっと愉ませて欲しい、ついでにもっと(私が)トクするようにして欲しい、といった感じではないかと…。そういうことを、最も派手に展開してくれそうなのは誰か。年初からの不倫・不祥事叩きに都民ファーストブーム、北朝鮮騒動に相変わらずのニッポン自讃ムード等々を眺めていると、そんな気がしてきます。

最近、『帝都復興の時代』(筒井清忠著・中公文庫)という本を読みました。副題に「関東大震災以後」とあるように、大正12(1923)年9月に発生した関東大震災後の政治状況や復興の体制、これに絡む大疑獄事件、さらには人びとの意識・社会の変容などが描かれます。文庫化前の単行本上梓は2011年末で東日本大震災のすぐ後。私たちも震災後の復興期を生きているわけで、何から何まで今の現実と関東大震災以後が符合するわけではありませんが、人心や社会の変化という点では、たいへん考えさせられるものがありました。

●一億総活躍と人生100年

さて、昨年6月の「ニッポン一億総活躍プラン」に続き、今年「人生100年時代構想(会議)」なのだそ

野田眞のこんなの発見(43)

「人生100年時代構想」に想う

うです。「総活躍」のほうは、まあいちばん後ろのほうでウジウジしていればいいか、としか思いませんでした。が、「人生100年」のほうは、これまでの「人生80年」から一気に20年も伸びたこと、長寿とか高齢化について、日頃から実際に見聞きし、身近に具体的な例も生じつつあること、何よりも自身が来年古希に達することなどからやや強い関心を持ち、首相官邸HPにある同構想会議の資料を覗いてみました。

首相が「一億総活躍社会」を実現するための本丸と位置付ける「人づくり革命」を進めるらしいこの構想会議は、今のところ9月11日に最初の会合があったきりで、具体的な議論は未だ始まっていませんが、検討されるテーマとして、

①すべての人に開かれた教育機会の確保、負担軽減・無償化。何歳になっても学び直しできるリカレント教育の実現

②①の課題に対応した高等教育改革

③企業の人材採用の多元化と高齢者雇用の多様化

④高齢者向け給付が中心の社会保障制度を全世代型に改革(一部、文言を筆者が整理)

の4点が挙げられており、年内に中間報告をとりまとめて、来年前半には政策パッケージを盛り込んだ基本構想が打ち出されるそうです。

これからの世の「方向性」の核ということなのでしょう。制度問題や働き方、教育、それに個々人の生き方にまで踏み込みそうな実に横断的な内容で、具体的になるに連れ、突っ込みどころがあれこれ出て来るでしょうが、どうもこれは、今現実の高齢者ではなく、これから10年後、20年後、あるいはそれ以上先に高齢となり、しかも長生きをする人たち

野田 眞 生活経済ジャーナリスト

私たちの「生活経済の将来」という観点から対象・テーマを選び、実際の見聞・体験を通じて知り得た・学んだ・考えさせられたことを、できるだけ鮮明にお伝えします。

相手の話で、当面の問題は視界に入っていないようです。考えてみれば、個人差があるとはいえ既に高齢者と区分されるような年齢の人に「一億総活躍」と声をかけてみても、なかなか難しいものがありますので、「100年時代」の構想から外されても仕方ないことではありましよう。

●目の前の超高齢化対策は?

ただし、現に生きている高齢者にとっても、90歳、100歳を超えて長生きしてしまうことは、受けとめ方は異なるでしょうが、それぞれに重大な問題だろうと思います。今年9月時点で90歳以上が200万人を超えたそうです。また100歳以上も7万人超とか。日々、刻々と進んでいる超高齢化への対策も、同時に進める手はないのでしょうか。

例えば、近年とみに目を引くようになった、街中のあらゆる場所での高齢者の必死の形相や諦めとも遠慮ともとれる表情を少しでも和らげられないのでしょうか。一つ考えたのは、おそらくコストの問題で廃された公共交通機関、とりわけバスの車掌の復活です。高齢者に限らず車椅子やベビーカー利用者など多くの人が助かり、車内での痴漢は減り、定時運行にも資するはず。また、スニーカー着用の奨めは、働き盛り世代はともかく高齢者が先ではないかとも思います。

スマホの時代となり、ドッカと座り込むことが優先され席を譲る光景を見なくなりました。多くが俯いて覗き込みながら周囲に関心を払わず、また階段を上らずエスカレーターばかり利用しています。目の前の現実そっちのけで、情報端末との一体化に埋没しているようでは、思慮浅き「人生100年」の多くを医療のお世話になるほかなし?